

CONTENTS

- 1 ごあいさつ
- 3 スキルアップコースの開催・受講のすゝめ
- 7 事務局からのお知らせ
- 8 <NCPR講習会開催だより>長浜赤十字病院
- 10 <NCPR講習会開催だより>長崎大学
- 12 <お知らせ>日本蘇生科学シンポジウム

ごあいさつ

細野 茂春

日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法委員会 委員長
 日本大学医学部 小児科学系小児科学分野 准教授
 同総合周産期母子医療センター室長



2015年10月16日に国際蘇生連絡委員会（ILCOR）の心肺蘇生に関わる科学的根拠と治療勧告コンセンサス(Consensus on Resuscitation Science and Treatment Recommendation : CoSTR)に基づくJRC蘇生ガイドライン2015が発表されました。「第4章新生児の蘇生」は日本周産期・新生児医学会NCPRガイドライン2015作成委員会により作成され、講習会事業に必要な“日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく 新生児蘇生法テキスト”も2016年3月25日に発行でき、新たな講習会が4月から開始されました。

2010年の改訂から大きな変更がなかったこともあるかと思いますが、NCPR講習会開催件数も改定直前・直後に大きく落ち込むことなく2015年ガイドラインの基づいた講習会にスムー

ズに移行できましたことは、地域に根付いたインストラクターの方々の講習会事業に対する熱意と迅速な対応のおかげです。この場を借りて感謝申し上げる次第です。インストラクターの方々に対する“日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法インストラクターマニュアル”も4月18日に発刊することができました。最新の教育論に基づいてインストラクターがNCPR講習会を開催するためのスキルを身につけられる事を目標とし、今後更新に必要なスキルアップコース（Sコース）に関し、新たな項目として追加しましたので是非ご活用いただければと思います。今後ますます修了認定者への知識・技術の維持が非常に重要なテーマとなってきます。詳しくは号の特集をご参照ください。

また毎年、日本蘇生協議会（JRC）の正会員の学会が持ち回りで『日本蘇生科学シンポジウム（J-Ress）』を開催してきましたが、2017年7月17日（月祝）に第53回日本周産期・新生児医学会学術集会と併設する形で板橋家頭夫先生（昭和大学医学部小児科学講座）を会長に、細野茂春が大会実行委員長として『第10回日本蘇生科学シンポジウム』を開催することとなりました。第53回日本周産期・新生児医学会学術集会参加者は無料ですので是非ご参加いただければと思います。こちらも詳しくはホームページをご覧ください。

最後に現在取り組んでいる新たなNCPRの2つの事業についてご案内いたします。一つ目は講習会事業を受講される救急救命士に対しての教材開発です。自宅分娩や車中分娩など新生児医療を専門にする医療従事者がいない中で最初に

救護するのが救急救命士の方々であり、既に多くの救急救命士の方々がNCPR講習会を受講されている現状を踏まえて、委員会として検討した結果、オプションとして皆様方にシナリオ実習でお使いいただける標準化したシナリオを作成することにいたしました。二つ目は新生児医療に関わる医療従事者の多くの方々が発展途上で技術支援を行ったり、また発展途上国から医療従事者の受け入れ、その一環で新生児蘇生法を取り上げていただいていることから、英語教材の開発を現在行っているところです。英語版アルゴリズム図や、英語版テキストやホームページなど完成次第、また皆様へお知らせいたします。

引き続き皆様のご支援ご協力を賜りたく、ここに謹んでお願いを申し上げます。

第10回 日本蘇生科学シンポジウム（J-Ress）について メインテーマ「領域を超え発展する蘇生科学」

日 時：2017年7月17日（月祝） 9:00～17:00

会 場：パシフィコ横浜会議センター 〒220-0012神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

参加費：2,000円 ※第53回日本周産期・新生児医学会学術集会に参加登録の方は参加費は無料です

シンポジウム 「母体救命を考える」

特別講演 田村 正徳 先生「NCPRの歴史（仮）」

シンポジウム 「ガイドライン2020に向けての課題」

今後、プログラム等の最新の情報は下記URLにて随時アップいたします。お見逃しなく！

<http://jress10.umin.jp>

スキルアップコースの開催・受講のすゝめ

杉浦 崇浩 豊橋市民病院 小児科

NCPR 修了認定者のための復習コースである「スキルアップコース（以下Sコース）」が2015年4月に開始してから約1年半が経過しました。

各地域のインストラクターの皆様のご熱意のもと、徐々に広がりを見せているSコースですが、まだまだ目標とする「Sコースによって日々の臨床の現場で継続的に復習が行われる環境」には至っていないのが現状です。

今号ではNCPRを取り巻く現状と今後の動向、また実際にSコースを開催していただいたインストラクターの皆様の声、受講された皆様を中心に、「Sコースの開催・受講のすゝめ」をお伝えしたいと思います。

Sコース開催状況と今後の必要性

NCPRがスタートして9年が経過し、A・Bコースを受講しNCPR修了認定を持っている方は既に65,000名（2016年9月末日現在）を超えました。周産期医療に常時携わっていると考えられる人数は約75,000名で、あと1,2年でその数字が達成されるころまでできました。新規でA・Bコースを取得する人数は2012年をピークに、徐々に減少傾向を示す一

方、更新対象者数が徐々に増加し、今後2017年度以降は毎年1万人以上が資格更新の対象者になります（図1）。

一方、Sコース開始以降、Sコースの開催回数は2015年度で161件（全コース開催件数の11.5%）、2016年度は9月末日で134件（全コース開催件数の16.3%）とまだまだ少ない状況です（図2）。

図1 認定者数の推移

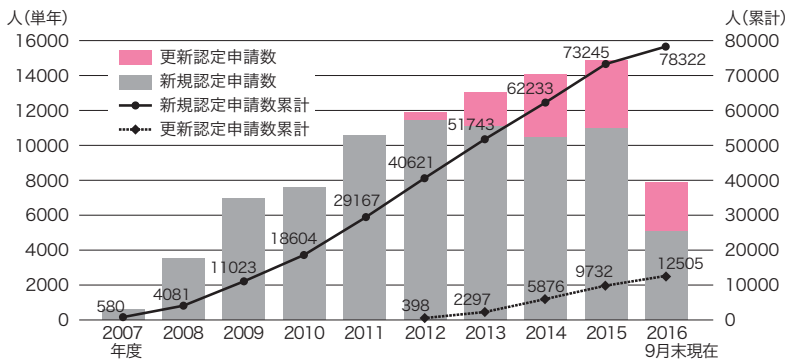


図2 講習会開催状況（年次別）

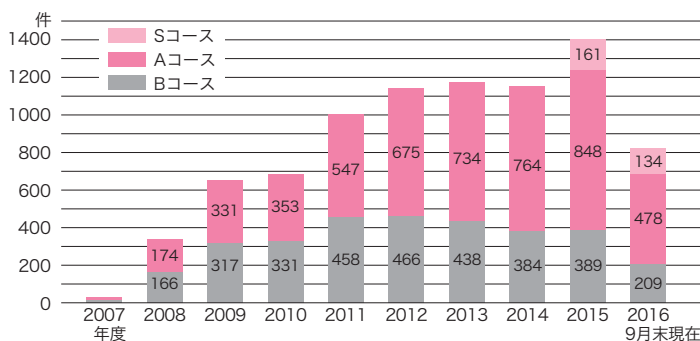
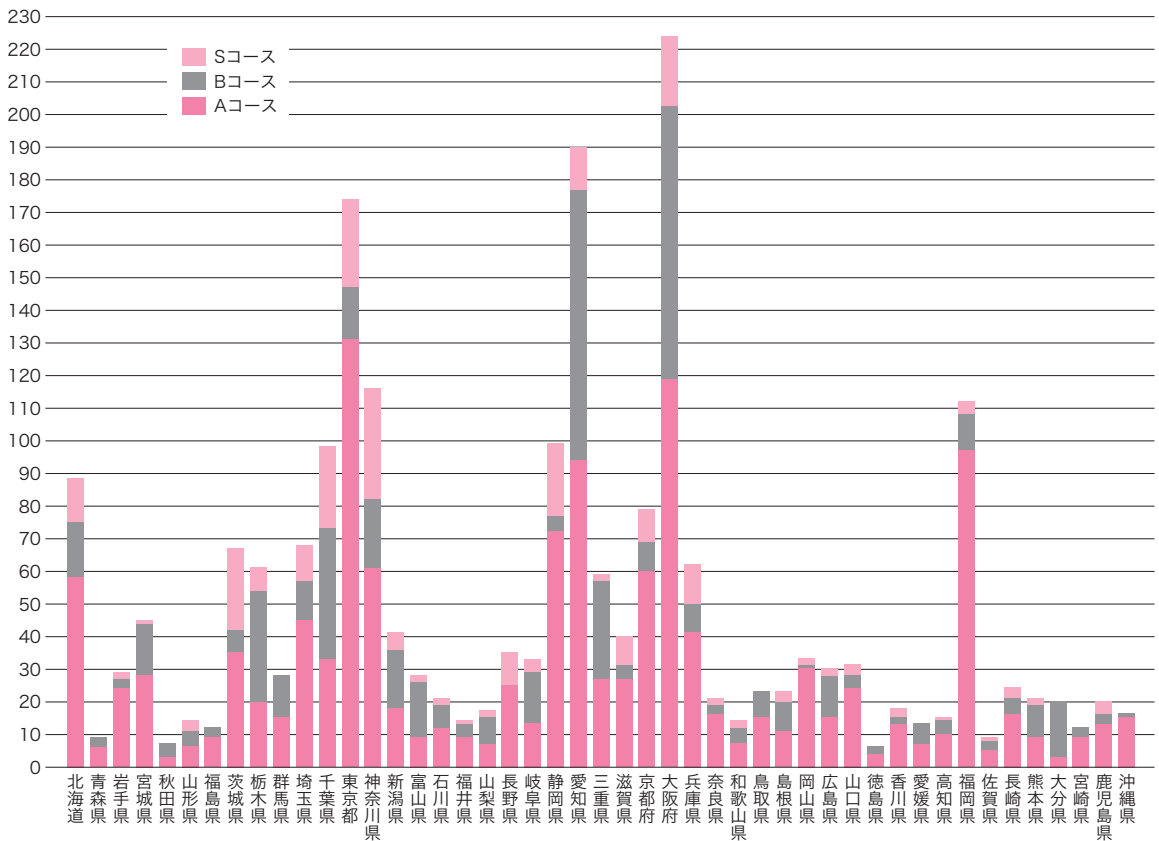


図3 県別の開催状況（2015/4-2016/9）



さらに県別の講習会開催状況を見ると、Sコースの開催回数には地域によってかなりばらつきが認められ（図3）、これらの事からもSコースはまだまだ馴染みの少ないコースと言えます。

加えて認定期間が5年から3年へ短縮され、資格更新の際のSコースの必須化（注：3年間の有効期限になった人からeラーニングでの更新はできなくなります。またA・Bコース再受講による資格更新はできません）に伴い、今後Sコースのニーズが急激に増加することが予測されます。現在はまだeラーニングでの更新もできるため、資格更新をしたA・Bの修了認定者のうち、Sコースを受講して資格更新したのは全体のわずか6.7%に留まっています。

NCPRを取り巻く今後の環境は、さらに積極的なSコース開催が望まれています。

Sコース開催へのヒント

現在Sコースの受講・インストラクターとしての実績の証明として、アンケートの提出をお願いしています。そこで実際にSコースのインストラクターをされた皆様の声、そして受講された修了認定者の声をご紹介します。

1. インストラクターの声から

Sコースを開催したインストラクターへ「Sコースのコース内容は十分でしたか？」との問いに18.6%が『全くその通り』、78.1%が『その通り』、2.1%が『そうではない』との回答が得られ、その内容の充実度については改善の余地があるものの、かなり肯定的な結果でした（図4）。

またSコースを実施して「今後定期的な開催ができるか?」との問いには90%が『はい』と回答し、その回答者への『どの程度の間隔で開催可能ですか?』との問いでは3~6か月で開催できるとの回答が多く寄せられました(図5、図6)。このことから一度Sコースを開催したインストラクターにとって、数か月毎のSコースの定期開催はさほど困難ではない様子が伺えます。

ここで実際にSコースを既に行っているインストラクターの背景に目を向けると、トレーニングサイトで開催されている「インストラクター対象フォローアップコース」に参加し「Sコースの実技・シナリオ演習の実施法」の演習を体験したイ

ンストラクターは比較的早期に1回目の開催している傾向が認められ、更に一度開催したインストラクターは、その後も継続的にSコース開催していることが判りました。Sコースの開催に不安や不明な点のあるインストラクターの皆様は、是非各トレーニングサイトのフォローアップコースへ参加いただき、積極的にSコースの指導法を学んでいただければと思います。

2. 受講者の声から

Sコースの受講者へ「コースを受講前と後で蘇生が必要な赤ちゃんに対し適切にNCPRを実践できると思うか?」との問いから、有意にNCPRの実践への自信が増していることが判りました(図7)。

図4 コース内容の充実度(インストラクター)

Q: コース内容は十分でしたか?

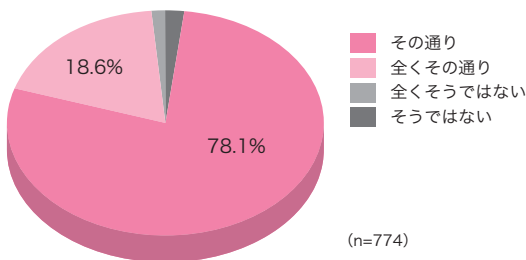


図5 コースの定期開催(インストラクター)

Q: 今後定期的な開催ができますか?

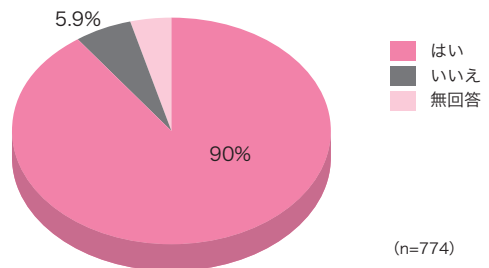


図6 コースの定期開催(インストラクター)

Q: 定期的な開催の期間は?

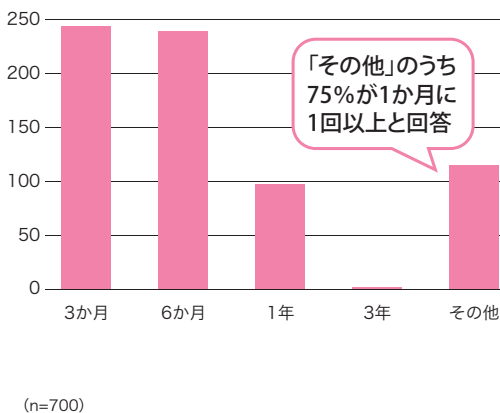
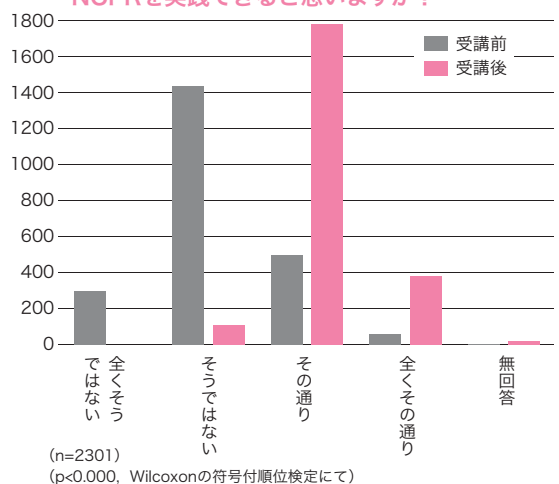


図7 受講者の蘇生に対する自信(Sコース受講前・受講後)

Q: 蘇生が必要な赤ちゃんに対し適切にNCPRを実践できると思いますか?



また「Sコースを定期的に受講したいか？」との問いに99.1%の受講者が定期受講を希望し、その間隔・頻度については6か月から1年の間隔の希望が多いことが判りました(図8、図9)。このことから少なくとも1年毎の定期開催が望まれます。

図8 コースの定期受講(受講者)

Q:今後定期的な受講を希望しますか?

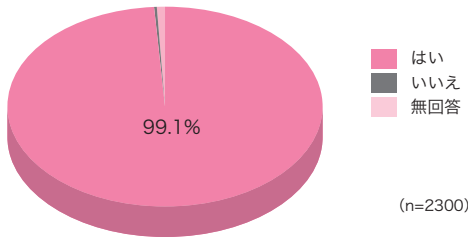
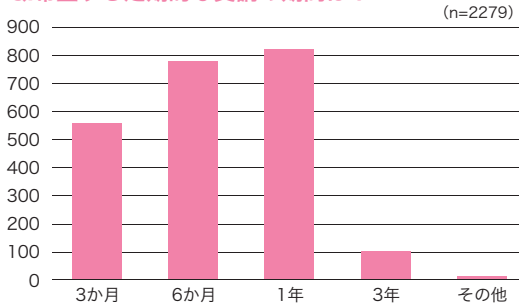


図9 コースの定期開催(受講者)

Q:希望する定期的な受講の期間は?



蘇生技術の質の維持のために

NCPRのA・Bコースを受講し、資格を取得したみなさんはもうSコースを受講しましたか?まだの方は是非その受講をお勧めします。Sコースはみなさんの新生児蘇生の手技をもう一度振り返り、復習する「実技」を重視したコースです。従来A・Bコースと同様の「講義」「手技実習」「シナリオ実習」の三つの要素で構成されていますが、eラーニングやテキストを用い自分で復習可能な「講義」の時間を20分と極力短縮し、またプレテスト・ポストテストを配置せず、「手技実習」と「シナリオ実習」の2つの実習を重視し、より多くの時間を配分した合計3時間の『蘇

生技術の質の維持』を目的としたコースです。

資格更新としての側面から

これまで知識の復習としてeラーニングが提供されてきました。もちろん新生児蘇生の知識は必要ですが、知識だけでは実際の新生児仮死の赤ちゃんを救うことは難しいと思われます。またガイドラインに於いても頻回の蘇生訓練復習が提案されました。このことから、従来eラーニングの履修により資格更新が可能でしたが、NCPR制度の改正により2016年5月以降に資格を更新した後は、次の更新の際にはSコースの履修が必須となりました。ここでA・Bコースの再受講では資格更新ができないこと、またその認定期間も5年から3年に短縮されたことにも注意が必要です。

最後に

福沢諭吉は学問のすゝめで「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり。されども今広く此人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、其有様雲と泥(どろ)との相違あるに似たるは何ぞや」、つまり「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言われている。人は生まれながら貴賤上下の差別ない。けれども今広くこの人間世界を見渡すと、賢い人愚かな人貧乏な人金持ちの人身分の高い人低い人とある。その違いは何だろう?それは甚だ明らかだ。賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとに由ってできるものなのだ。」と述べ、学びの大切さや心構えを論じた。

全国各地のインストラクターの皆様によってSコースが開催され、A・Bコースの認定をお持ちの方々が積極的にこのコースを受講し、継続的に学ぶ事によって『蘇生技術の質の維持・向上』、更にはあかちゃんの予後の改善に結びつくことを願っています。

講習会の事前公認申請、実施報告がWEBでできるようになりました！

今回は、よくある質問をご紹介します。

今後は、さらにお問い合わせが多かった地域ごとの開催件数や受講者数のデータを引き出せる仕組みも開発していく予定です。

より使いやすいシステムになるよう、皆様のご意見をお待ちしております。

講習会開催件数	受講者数
Aコース	4,819
Bコース	3,171
Sコース	295
合計	8,285

講習会開催件数	受講者数
Aコース	63,377
Bコース	37,704
Sコース	2,181
合計	103,262

ご利用の際は、マニュアルをご覧ください。

よくあるご質問Q&A

Q1 事前公認申請と実施報告をする人が別の人の場合はどうすればいいですか。

A1 事前公認申請と実施報告のログインは同じメールアドレスを入力すれば別の人でも可能です。

Q2 既に WORD 版で事前公認申請を提出していますが、実施報告を WEB からできますか。

A2 WORD 版の連絡先のメールアドレスとコース公認番号でログインすれば可能です。

Q3 提出後に訂正がある場合はどうしたらいいですか。

A3 事前公認申請書は実施報告書で訂正できますが、開催日、受講者人数のご変更は事務局までご連絡下さい。実施報告書は訂正できませんので、事務局までご連絡下さい。

Q4 申請ができていないか確認する方法はありますか。

A4 「過去の事前申請から作成する」にコース公認番号があれば申請ができています。まだ掲載されていない場合は未申請ですので事務局までご連絡下さい。

Q5 コース公認番号がわからない場合、どうしたらいいですか。

A5 事前公認申請のログインされましたメールアドレス宛にお知らせします。申請から 2 営業日経っても届かない場合は事務局までご連絡下さい。

Q6 入力途中で「申請する」または「実施報告する」を押してしまい、入力ができなくなりましたがどうしたらいいですか。

A6 恐れ入りますが、事務局までご連絡下さい。入力できる状態に戻します。

Q7 A コース・B コースで開催日前に名簿を準備することはできますか。

A7 「実施報告をする」から受講者名簿を入力後に報告せず「保存」を押します。報告時は、その状態から入力できます。

Q8 印刷を忘れたのですが、どうしたらいいですか。

A8 「過去の事前申請から作成する」の一覧から該当のコースの右端に PDF で事前公認申請書、実施報告書が印刷できます。

Q9 過去の講習会を一覧で見えることはできますか。

A9 「過去の事前申請から作成する」に 2016 年 7 月開催分より一覧になっています。それ以前の講習会は見れません。

新生児蘇生法講習会 開催だより

2016
NCPR



今回は長浜赤十字病院と
長崎大学のご紹介です。



長浜赤十字病院での公募型コースの開催について

山本 正仁 (長浜赤十字病院 小児科)

滋賀県にある長浜赤十字病院では数多くの「一般公募のNCPR講習会」を開催しています。2016年10月現在で22回の専門コース(Aコース)を、10回のスキルアップコース(Sコース)を、22回の出張講習会を行いました。当院のAコース講習会では、受講後に独自のアンケート調査を行っております。以下、2015年の日本周産期・新生児医学会で発表した526名のアンケート結果を踏まえて、公募型コースの開催についてご紹介したいと思います。

受講生の8割は地元の滋賀県から、他は近畿、東海地方の方々です。関東、東北の方も稀にいます。受講生の職種は、医師(医学生含む): 24%、看護師: 37%、助産師: 42%、救急救命士: 6%でした。68%の受講生が病院勤務、22%が産科診療所勤務でした。日本のお産を支えている産科診療所勤務の方に、NCPRがもっと浸透し、気軽に受けられる体制を整えていくべきだと考えられます。公募の講習会でもこの程度ですから、今後も産科診療所への出張講習会は積極的に行っていこうと考えています。

当院のAコースは、これまで時間割を何度も変更しました。現在は、午前10時から、約1時間の昼休みを挟んで、午後5時半までが標準の時間割です。規模は4ブースで24~32名です。

午前中の講義は、学会指定のスライドで行っておりますが、特にガイドライン2015になってからは動画も多く、長くなってしまいがちです。受講生の

集中力をもつと思われるギリギリの95分を充てています。公募のコースは不特定多数の、色々な職種の方々がいらっしゃいます。またテキストでの事前学習を促していますが、受講生の13%が「ほぼ予習無し」で受講されているため、院内限定コースと違い、このような集団への講義では、内容毎に強弱をつけるわけにはいきません。後の実技やシミュレーション実習では強調しにくい知識までしっかりと網羅した講義を心がけています。

昼休みは55分とりますが、その間にスタッフはランチミーティングを行います。自己紹介、午後のスケジュールの確認、午前中のプレテストの結果による要注意受講生の情報の共有をしています。

午後はアイスブレイクから始まり、基本手技の実習に90分を充てています。気管挿管は全員にやらせてもらっています。8割の受講生が看護師、助産師で、実際に気管挿管することはない人たちですが、自分で実際に行うことにより、児の固定を

どうすれば気管挿管しやすいかということも身をもって体感できるだろうと考えているからです。午前の講義の際、ビデオ喉頭鏡の映像をスクリーンに出して解説しながら気管挿管のデモを行っていますが、これが結構好評です。

ケースシナリオによるシミュレーション実習には105分を充てています。シミュレーション実習は、シミュレーション前にブリーフィング、後にはデブリーフィングが行われて効果を発揮すると考えているので、十分な時間が必要です。参考としてAHAのPALSコースでは、10分のブリーフィング、10分のシミュレーション、10分のデブリーフィングが行われております。NCPRではシミュレーションが5分程度かかるので、PALSに合わせると一つのシミュレーションに15分かかる計算になります。受講生全員に少なくとも1回のリーダーをしてもらおうとすると、1ブースは6人くらいが適切ということになります。規定一杯の1ブース8人で開催すると、内容が薄くなりがちなので、最近では1ブース6人で開催することにしています。また、デブリーフィングのためだけでなく、実際の臨床同様、蘇生記録は必須です。当院では、各ブースにホワイトボードを置いて、蘇生記録を書いてもらっています。

次に、「脳低体温療法の実際」という特別講義を行っています。受講生の勤務先の多くは、脳低

体温療法実施施設ではないため、自分たちで蘇生した赤ちゃんが、その後どのように治療されるのかイメージしてもらうためです。赤ちゃんを送り出し残された御家族に寄り添っていただく立場となる受講生が多いので、実際を知って頂くことは有用だと考えています。

最後にポストテスト、制度編の講義、アンケート記入、記念撮影などを行い終了です。

終了後に、スタッフのみで集まりアンケート結果を見ながら反省会を行っています。アンケートの結果をみて心が折れそうになることもありますが、次回以降のインストラクション、コース運営に活かせるよう努力しています。アンケートに「インストラクターをやりたい。」と書いてある人をスカウトすることもあります。また、「スタッフとして参加してみたい」と後日直接メールを頂くこともあります。「何か楽しそうな事をしている。」「そちら側の人間になりたい。」と思われるような講習会の雰囲気作りも大切なのではないかと思っています。そのため「今日はベテランのインストラクターも初心者インストラクターも、見学者もたくさんいます。皆でNCPRを学んでいきましょう。」と最初に宣言することにしています。

今後も、皆でNCPRを学び、インストラクションを学べる集団として機能できるよう頑張っていこうと思います。そして当院のインストラクター出身者が自施設で講習会を開催できるようにサポートできるような体制を作り上げて行こうと考えています。



上五島講習会～長崎大学「生き生きと働く実践力のある 助産師キャリアアッププログラム」より

江藤 宏美(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻)

松井 香子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻)

皆さんは「長崎」と聞くと何を想像されますか?原爆投下、祈りの街、教会群、宝石箱をちりばめたような夜景、カステラにちゃんぽん…最近では話題の「軍艦島」が2015年世界文化遺産に登録されました。様々な表情を持つ長崎ですが一番の特徴として「島」、なんと日本一多くの島を保有する県なのです。島の数は大小様々で合計すると971にも上ります。今回は長崎大学で実施している助産師のためのキャリアアッププログラムにおいて、離島を含めた県内での新生児蘇生法講習会実施の取り組みについてご紹介したいと思います。

助産師キャリアアッププログラム

島嶼部を多く抱える長崎県において、周産期領域のネットワーク構築はもちろん、お産の現場に関わる一人一人の助産師が、正確にまた確実な新生児蘇生法の知識・技術を修得することの重要性は言うまでもありません。長崎大学では、2014年9月より「生き生きと働く実践力のある助産師キャリアアッププログラム」(文部科学省委託事業2014～2016年)を開始し、県内の助産師の学び直しを支援しています。助産師の実践能力を高めていく戦略の1つとして、新生児蘇生法講習会を定期的に開催してきました。プログラムが開始され約2年が経過しましたが、これまでに新生児蘇生法講習会専門(A)コースを8回開催しました。延べ参加人数は医師15名、助産師72名、看護師16名、助産師養成コース学生18名、救命救急士3名の合計114名にのぼっています。

ルアップはとても重要なことです。前述した、助産師キャリアアッププログラムには五島列島からの参加者もいらっしゃいました。そこで、必要な方々が多く受講できるように長崎市内だけで講習会を行うのではなくて、出張NCPR講習会を行おう!ということになりました。2015年、2016年と1回ずつ上五島にスタッフ、機材を移動し、計2回講習会を開催させていただきました。



新上五島町の蛤浜。遠浅でとても美しい海水浴場です



ドラマのロケ地でも有名な、矢堅目からの絶景

長崎県上五島病院での開催

長崎県内では周産期医療ネットワークが構築されており、母児の緊急時には離島から総合周産期母子医療センターへ搬送ができるシステムは稼働しています。しかし、夜間帯の緊急時や天候不良の場合を考えると、離島においても、お産に関わるスタッフ一人一人の新生児蘇生法の習得やスキ

チームで新生児の命を守る!

2015年での長崎県上五島病院の開催では、院内の医師、助産師、看護師に加え、新上五島町の救命救急士さんも参加してくださいました。参加された皆さんは、お互いに顔見知りで、和気あいあいとした雰囲気講習会がすすめられました。

島で産まれた赤ちゃんの命は自分たちが守る!という強い意気込みも感じられました。スタッフの方々は日々の鍛錬もあるためか、非常にテンポよく、インストラクターのファシリテーションのもと、着実に知識を吸収し、日々の実践と照らし合わせ再確認したり、技術を習得していきました。

2回目の講習会では、小児科医が不在の場合でも新生児蘇生が確実に実施できるように、ということで内科や外科の医師も数名参加され、新生児蘇生の考え方や基本手技を学んでいただく機会となりました。非常に熱心に取り組んでいる様子が印象的でした。また、この際は東京から新生児蘇生法委員会委員長である細野茂春先生にご足労いただき、講習会全体をスーパーバイズして頂きました。多くの離島を有する長崎県の現状をご理解くださり、お力添え頂きましたことにこの場を借りて感謝申し上げます。



長崎県上五島病院での講習会の様子 (2015年11月)



長崎県上五島病院での講習会の様子 (2016年7月)

今後に向けて

助産師キャリアアッププログラムを始めてから、長崎県内で助産師のインストラクターが新たに6名増えました。さらに、県内各地で自立的に新生児蘇生の知識・技術の修得を促進するためにインストラクターを養成すべく、2016年11月には、鹿児島トレーニングサイトのサテライト開催として、長崎でインストラクター養成講習会を開催して頂きました。

助産師にとっては、2015年より開始された助産師の実践能力を評価する「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー) CLoCMiP®」レベルⅢの認証制度も相まって、助産師自身の意識も高まり、新生児蘇生法講習会への参加は増加しました。修了認定され、カードを手にとってそこで満足するのではなく、定期的に繰り返し知識・技術をブラッシュアップしていくことが必要であると考えています。助産師キャリアアッププログラムでは、講習会に必要な専用機材を3セット取り揃えました。これまで通り、専門(A)コース講習会の開催を計画的に行うとともに、講習会修了後時間が経って、知識や手技に自信がなくなったり、継続的に学びをすすめたい方々を支援するために、スキルアップコースの開催を企画したり、講習会開催の希望者には機材を積極的に貸し出します。今後も母子の安全・安心のために現場に即した支援を積極的に行っていきたくと考えています。



細野茂春委員長を囲んでの集合写真 (2016年7月)

第10回 The 10th Japan Resuscitation Science Symposium

日本蘇生科学シンポジウム

領域を超え発展する蘇生科学

- シンポジウム:母体救命を考える
- ガイドライン2020年に向けての課題

日時 | 2017年7月17日(月)祝 9:00~17:30

会場 | パシフィコ横浜 会議センター

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1 TEL: 045-221-2155

会長 | 板橋 家頭夫

第53回日本周産期・新生児医学会学術集会会長
昭和大学医学部 小児科学講座

実行
委員長 | 細野 茂春

日本大学医学部 小児科学系 小児科学分野

参加費:2000円 ※第53回日本周産期・新生児医学会学術集会に
参加登録の方は参加費は無料です。

<http://jress10.umin.jp>

【事務局】日本周産期・新生児医学会 事務局
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 2-30 TEL: 03-5228-2074 Email: info@ncpr.jp

【運営事務局】株式会社サンプラネット
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-5-10 住友成泉小石川ビル 6階
TEL: 03-5940-2614 FAX: 03-3942-6396 E-mail: jress10@sunpla-mcv.com



一般社団法人

日本周産期・新生児医学会



一般社団法人

日本蘇生協議会